事務事業評価シート2（一般事業）

1 基本情報

		事業番号	0370/502535/03/00		事業の類型		4
年度	19	事務事業名	図書購入事業	作成日	平成21年1月20日	重要度	4
予算事業名			図書購入事業	担当部課名	生涯学習課		
政策名			愛着と生きがいを育むまちづくり				
施策名			生涯学習	実施計画への記載	無	主要事業の指定	無
根拠法規及び関連法規			社会教育法、図書館法、市図書館条例・同条例施行規則				
事業の目的	誰のために（具体的に）		市民				
	誰（何）を対象として		市民				
	意図（どのような状態にしたいのか）		市民の教育と文化の発展を図る				

2 事業の概要　Do

実施の概要		図書資料の充実、適正管理による利用者への読書啓発				
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	図書購入冊数	冊	5,011	4,638	6,954	5,500
	図書貸出冊数	冊	160,378	150,401	130,057	140,000
	15歳以下貸出冊数	冊	27,000	23,630	17,638	18,000

3 投入資源

会計区分：一般会計　　事業費単位：円

インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員	2.000	2.000	100.0	2.000	100.0	0.200	10.0	
	臨時職員	0.750	0.750	100.0	0.750	100.0		－	
支出内訳	人件費	20,519,224	19,801,984	96.5	20,047,911	101.2	2,419,972	12.1	
	事業費	9,228,651	8,484,668	91.9	8,480,364	99.9	8,000,000	94.3	
	合計	29,747,875	28,286,652	95.1	28,528,275	100.9	10,419,972	36.5	
財源内訳	国庫支出金			－		－		－	
	県支出金	0	4,000,000	#DIV/0!	4,000,000	100.0		－	
	市債			－		－		－	
	その他			－		－		－	
	一般財源	29,747,875	24,286,652	81.6	24,528,275	101.0	10,419,972	42.5	
	合計	29,747,875	28,286,652	95.1	28,528,275	100.9	10,419,972	36.5	

4 評価指標

【有効性】

指標名1		年間貸出冊数に占める児童書（文学・絵本）年間貸出冊数率							
指標説明（式）		（年間児童書（文学・絵本）貸出冊数÷年間貸出冊数）×100							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度（計画）	前年比	備考
%	目標			－		－	21.0	#####	
	実績	20.6	21	101.9	20.4	97.1			

指標名2		有効登録者一人当たりの年間貸出冊数							
指標説明（式）		年間貸出冊数÷有効登録者数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度（計画）	前年比	備考
冊	目標			－		－	11.0	#####	
	実績	14.13	12.6	88.9	10.2	81.2			

【効率性】

指標名1		一日当たりの貸出冊数							
指標説明(式)		貸出冊数÷開館日数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
冊	実績	581	549	94.5	540	98.3	550	101.9	

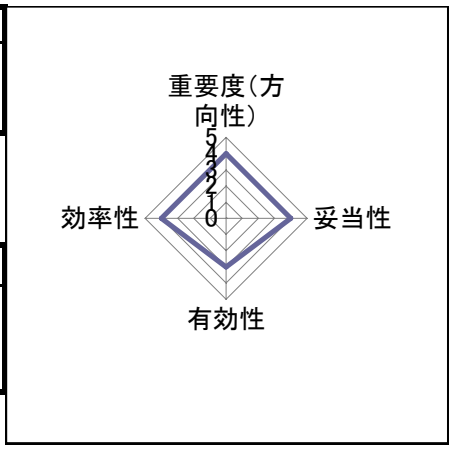
指標名2		一冊当たりの貸出コスト							
指標説明(式)		図書購入事業費÷貸出冊数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
冊	実績	185	188	101.6	223	118.6	74	33.4	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	図書館として、「市民に読んでいただきたい図書」、「公立図書館として所蔵すべき図書」の購入を行った。	5	4
	市民ニーズ	年々増加する、リクエストにも可能な限り対応できた。		
有効性	成果目標(改善)達成度	貸出冊数等、減少しているが平成19年度の目標は達成できた。	4	3
	市民サービス	図書への予約、利用者への情報の提供等、迅速に対応できた。		
効率性	コストの節減	行財政健全化プログラムにより、図書購入費の節減を行った。	4	4
	手段の最適性	事業の重要性により、選書については業務委託項目から除外した。		

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
妥当性	市民ニーズ	リクエストに対応すれば、するほど所蔵図書に偏りが生じてくるとともに、他の図書購入冊数が減ってくる。



7 事業の改革改善 Action

(1)評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
妥当性	市民サービス	図書購入費の減額により、購入冊数の減少が予測されるため、図書館広域利用制度を促進する。
H19→H20予算反映額		△500千円

(2)20年度の実施方針

市教委の方針及び市子ども読書活動推進計画に基づき、児童書の充実を図っていく。

検討の有無	ー
総合指標	21